



ソラコム「SORACOM Air for LoRaWAN」と衛星通信回線の接続実証に成功 ～衛星通信を使った「どこでもIoT」の実現を目指します～

スカパーJSAT 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 執行役員社長 高田真治、以下スカパーJSAT）は、株式会社ソラコム（本社：東京都世田谷区、代表取締役社長 玉川憲、以下ソラコム）が提供する「SORACOM Air for LoRaWAN」^{※1}とスカパーJSAT の運用する衛星通信回線を接続する共同実証実験を行い、広域性・柔軟性・多様性を特長とする衛星通信が IoT 用途でも活用可能であることの実証ができましたのでお知らせいたします。

今回の共同実証実験は、携帯電話の電波が届かない二地点（宮崎県立花ダム、山梨県^{みずがきさんそう}瑞牆山荘）で実施しました。ソラコムの「SORACOM Air for LoRaWAN」は、LoRa^{※2} ゲートウェイで受けとった情報を、通常は Soracom SIM を利用し携帯電話網経由で IoT 通信プラットフォーム「SORACOM」に送るシステムですが、本実証実験では携帯電話網利用区間をスカパーJSAT 衛星通信回線に置き換えて接続実験をしました。

実証実験結果は以下のとおりです。

【実験 1】

日時：2017年6月13日
場所：宮崎県 立花ダム
使用衛星：JCSAT-2B
システム構成：ExBird サービスシステム
結果：ダム上流域デバイスとの通信に成功

【実験 2】

日時：2017年6月20日
場所：山梨県 瑞牆山荘（標高 1,520m 地点）
使用衛星：JCSAT-2B
システム構成：ExBird サービスシステム
結果：瑞牆山登頂の登山者位置情報取得に成功

これらの成功により、衛星通信回線を用いることで^{とうしよ}島嶼や山間部等の携帯電話網未整備地域でも IoT 通信プラットフォーム「SORACOM」の利用が可能になることが明らかになりました。スカパーJSAT は自社の衛星通信網を活用し、ソラコムとともに IoT/M2M における通信の利用の障壁を下げ、どこでも、どなたでも、簡易に便利に利用頂けるサービスを通じて IoT 社会の創造に貢献してまいります。

^{※1} SORACOM Air for LoRaWAN (Air LoRaWAN) は、LoRaWAN を使用した IoT 向けのデータ通信を提供するサービスです。LoRaWAN とは LPWA (Low Power Wide Area Network) と呼ばれる無線通信規格の 1 つで、省電力で広域をカバーすることができ、IoT 用途での利用に適しています。低消費電力+長距離伝送を活かした IoT システムを構築することができます。

※² LoRa は、LPWA の無線規格の 1 つで、非常に低速ながら低消費電力で、長距離伝送できることが特徴です。その特徴により、既存のセルラー通信と並んで、IoT 用途において注目されています。日本ではアンライセンスで運用できるサブギガ帯域と呼ばれる 920MHz 帯を利用します。LoRaWAN の技術仕様は、400 社超の会社が参加する LoRa Alliance により仕様策定され、パブリックに公開されており、グローバルかつオープンな通信方式です。

(ソラコムウェブサイト：<https://www.soracom.jp/services/air/lora/>より抜粋)

以 上

実証実験構成図

